

読書活動への扉を開く！

No. R6-12

桑村小学校 令和6年11月1日 文責：関口 直

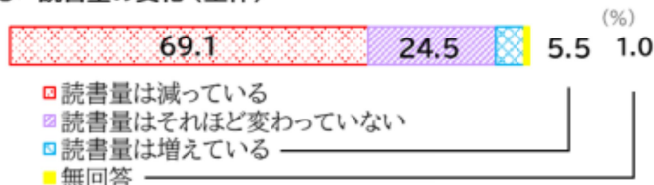
読書離れが進んでいるのでしょうか？

文化庁が9月17日に発表した2023年度の「国語に関する世論調査」が、新聞各紙で報道され、6割を超える人が、1ヶ月に1冊も本を読まないとして読書離れが進んでいると伝えていました。読書ができない理由として、「情報機器で時間が取られる」と4割以上の人々が答えています。毎日新聞の企画記事「読書離れ＝長文離れ」（9月17日）の中で、文藝評論家の三宅香帆氏は、「読書離れの原因は、日本人の長文離れというべき現象が起きていると考えられるとし、その要因を①ショート動画を投稿するSNSの普及②短文で、文脈のない細切れな語彙が中心のSNS特有の文章への慣れ」と分析しています。「長い文章を読むことは、自分から遠い場所への読解力や想像力を必要とし、自分にとってはノイズ（関心のない情報）となる知識も提供される。自分から遠く、ノイズとなる文脈を忌避している人が多いのではないか。」と推測しています。

<問7>1か月に読む本の冊数(全体)



<問8>読書量の変化(全体)



読書量が減っている理由とは？

複数回答。電子書籍を含む。雑誌・マンガは除く



本当に読書離れが進んでいるのでしょうか？今回の調査。前回5年前と比べて1冊も読まない人が15%（前回47.3%）ほど増えていますが、前回と調査方法が違うので、単純比較はできません。また、読書量が減っていると答えた人の割合は、69.1%（前回67.3%）であまり変わっていません。ネット情報の中には、ここ何年かで大きく読書離れが進んでいるとは言えないとしている記事もあります。自分の感覚でも、昔から読書好きでいっぱい本を読んでいる人がいる一方、雑誌やマンガなどは読んでも読書はほとんどしていない人もいました。読書離れということは今まで読書をしていた人が、しなくなる、できなくなるということだと思われそうですが、好きな人は相変わらず本を読んでいるように思います。仕事が忙しくてなかなか本を読めないという人も、きっと仕事の本などはけっこう読んでいるのではないのでしょうか。そもそも読書することに一定の価値を置いている人は、たとえ忙しくてもなんらかの形で本を読んでいるように思います。

桑村小では、読書活動を通して、感性を育む教育をすすめています。読書は、豊かな学びを実現する上で、欠かせないことだと考えています。いろいろな種類の本に触れることが大事だし、そのためにもたくさんの本を読んでほしいですが、それ以上に重視したいことは、読書の楽しさを味わってほしいということです。それが、生涯にわたって読書に親しむ人を育てることにつながっていくのだと思います。「もっと読みなさい」と強制しても読書好きにはなりません。様々な取り組みを通し、自分なりの楽しみ方、味わい方を身に付け、読書の広くて豊かな世界に触れられるように、引き続き読書活動を大切にしていきたいと思います。

